特7
646

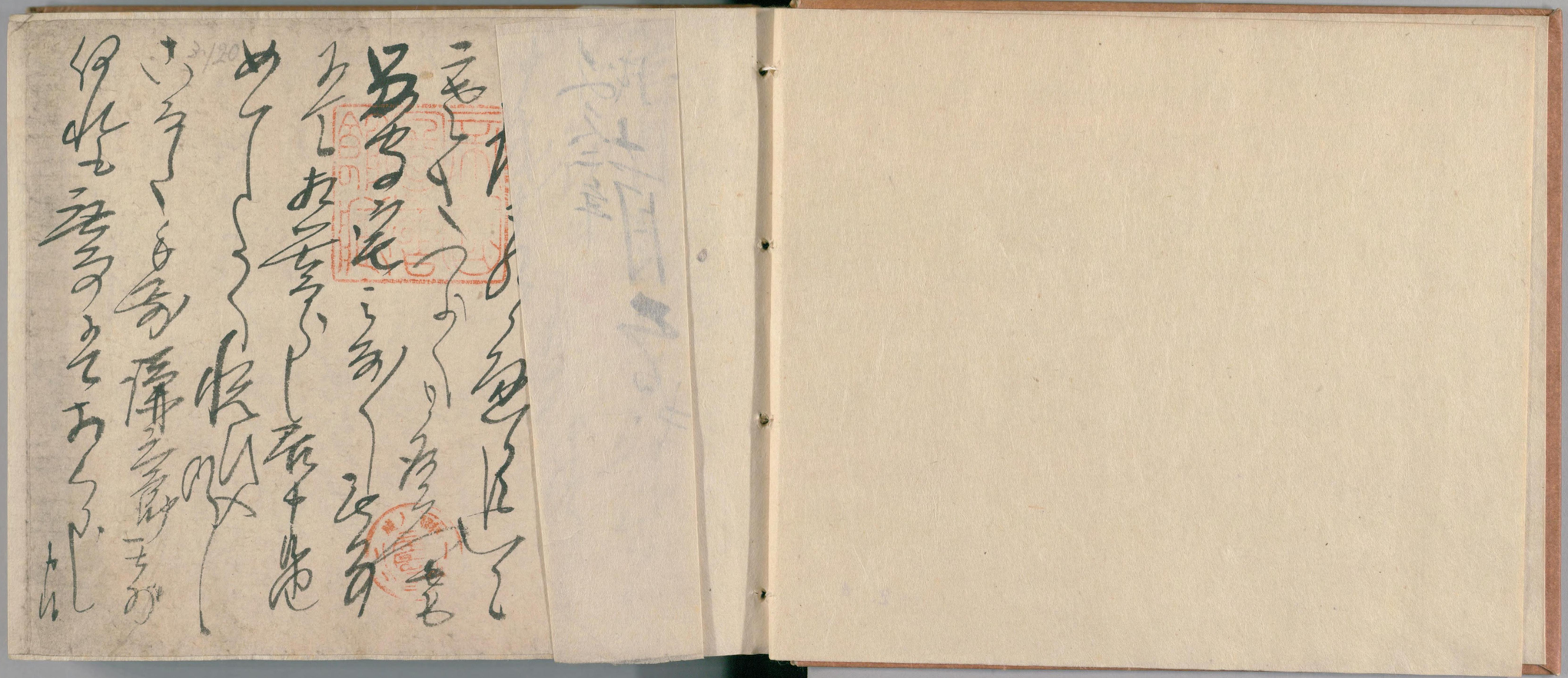
国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用

29.2. Δ

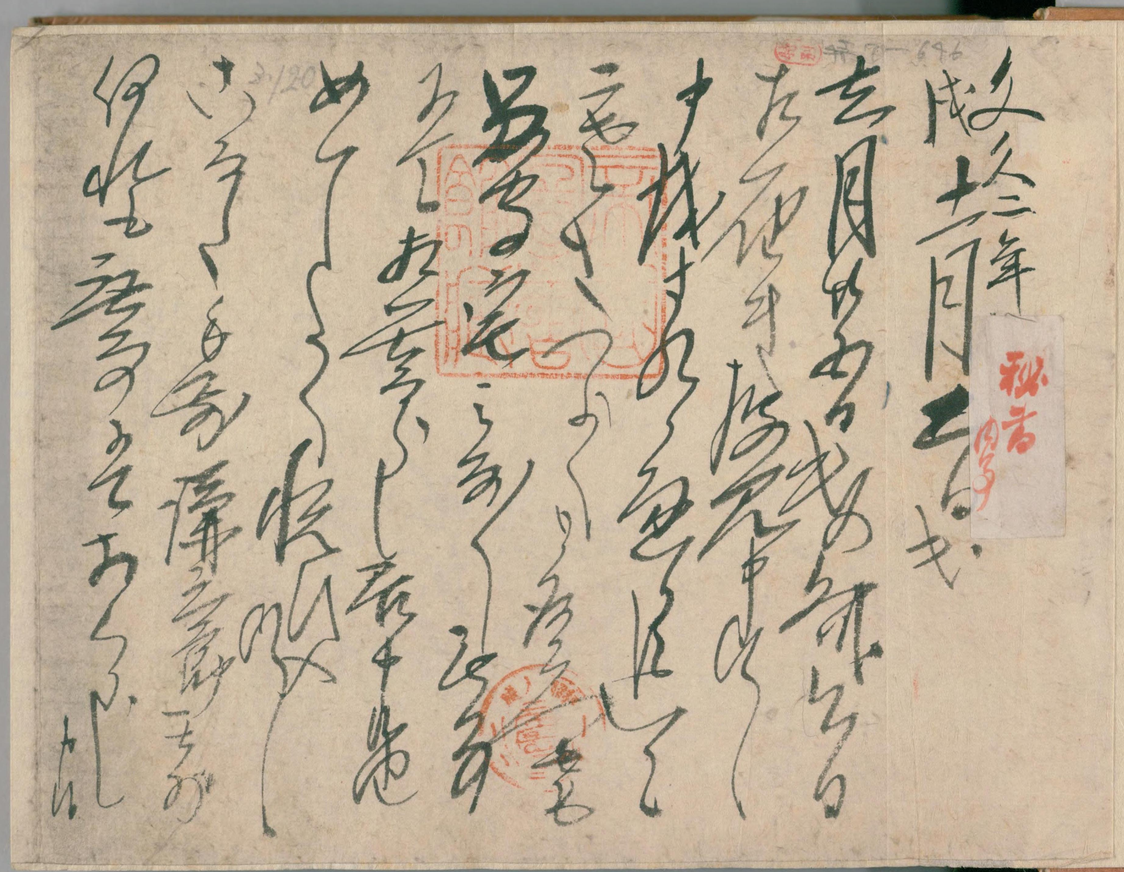
国立国会図書館　タイトル『書簡集』 請求記号 特7-646

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

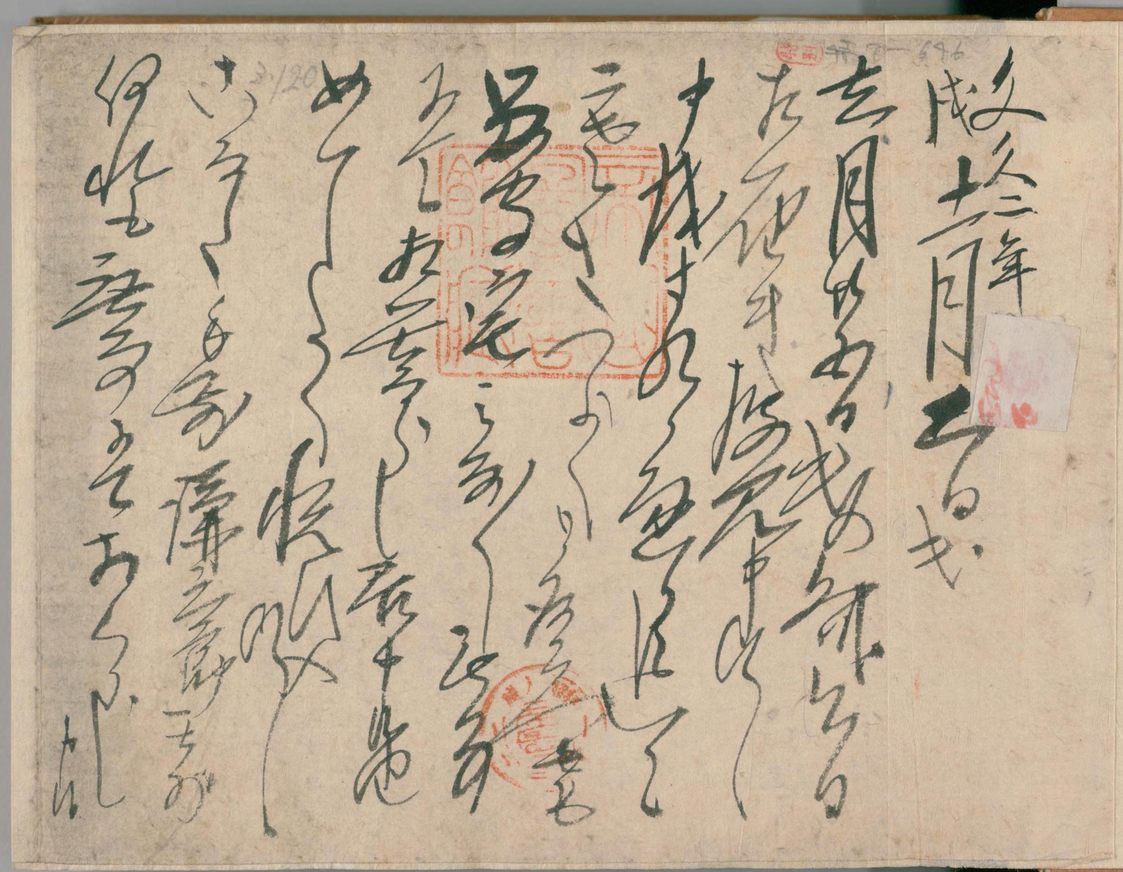
ガラス使用



秘書

国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用

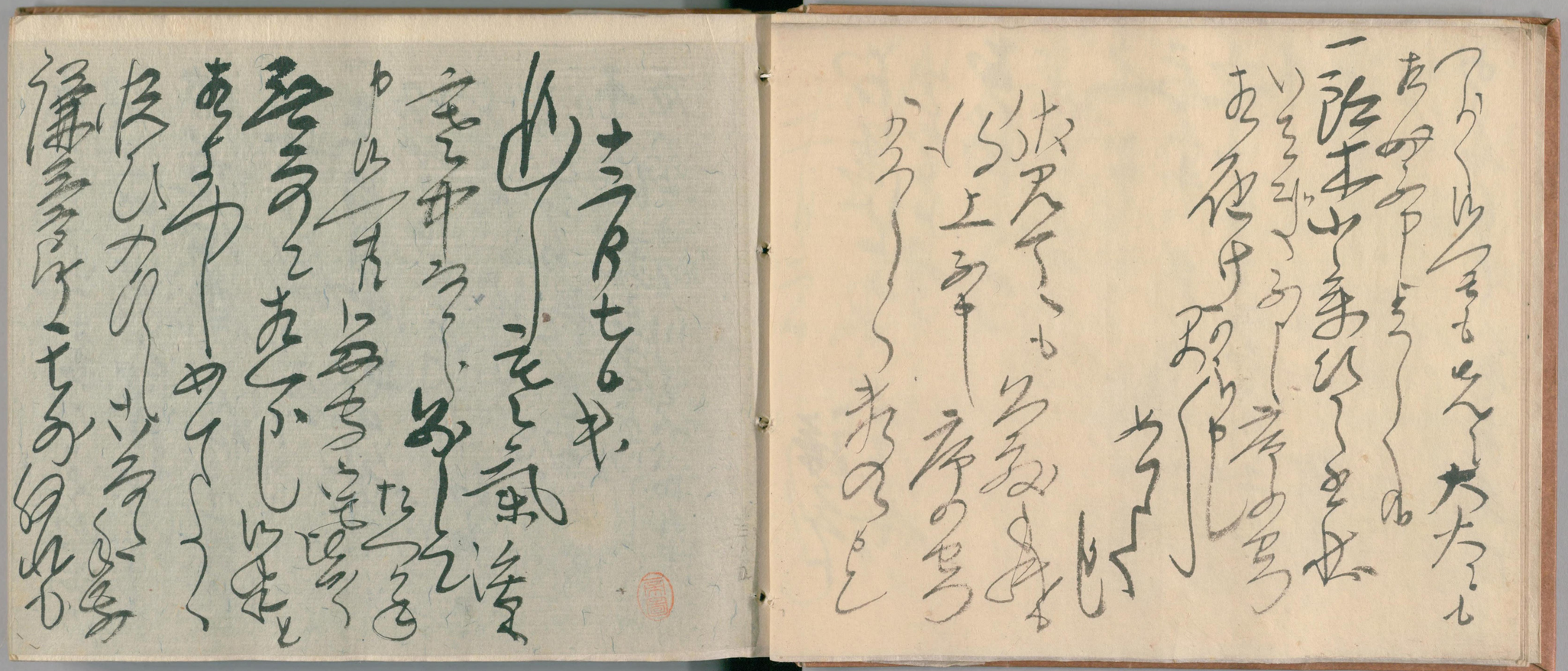


国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用

こしらへさせ夏在い
泰西本草名疏也
右本之巻上ニ洞板の蘭人
の像あり右板ハ[illegible]の板
ニ[illegible]夫と
[illegible]
[illegible]

うきしの田を入こけたくさ
学味いし 有所之言
[illegible]
一洋字篇も作り[illegible]右泰西[illegible]
右[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『書簡集』 請求記号 特7-646
ガラス使用

こしらへも多き
春画本草名疏也
右本二巻上ニ洞松の
像あり右松ハ
みほうたるものそれ
ゆへ夫を
ゆへ
ゆへ
ゆへ

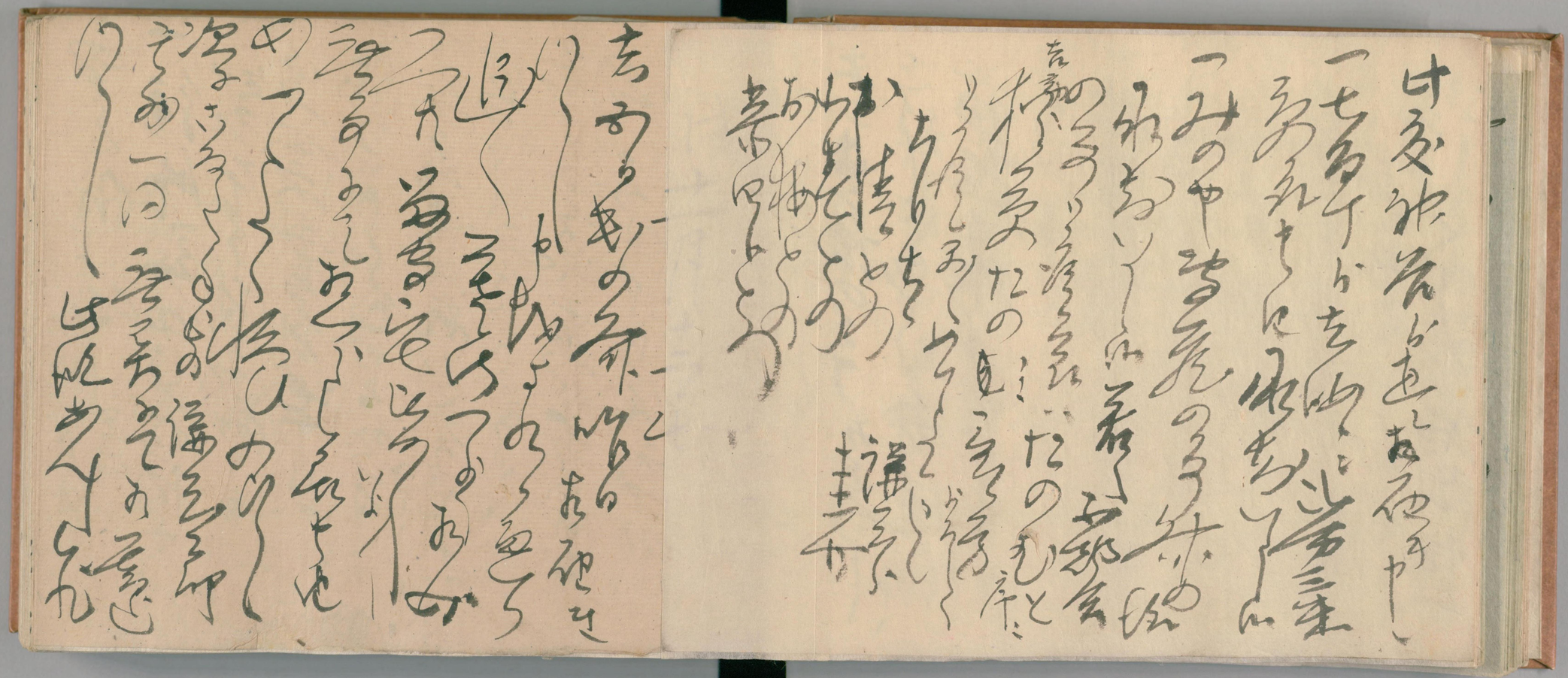
こしらへもなし
春画本草名疏也
右左ニ巻上ニ洞松の
像あり右松ニそひ
ほうたるそのそまを
ふるそ立ち匂ひ
るなし

ふるまひ時ハ右洞
の松をこゝろをかけたのし
ふるもたのもしき

右洞の松ハ松陵君のセキ
みの多内ニ在り時ニ
春ハ色こゝろ
ハ小なる
ハ
ハ
ハ

国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

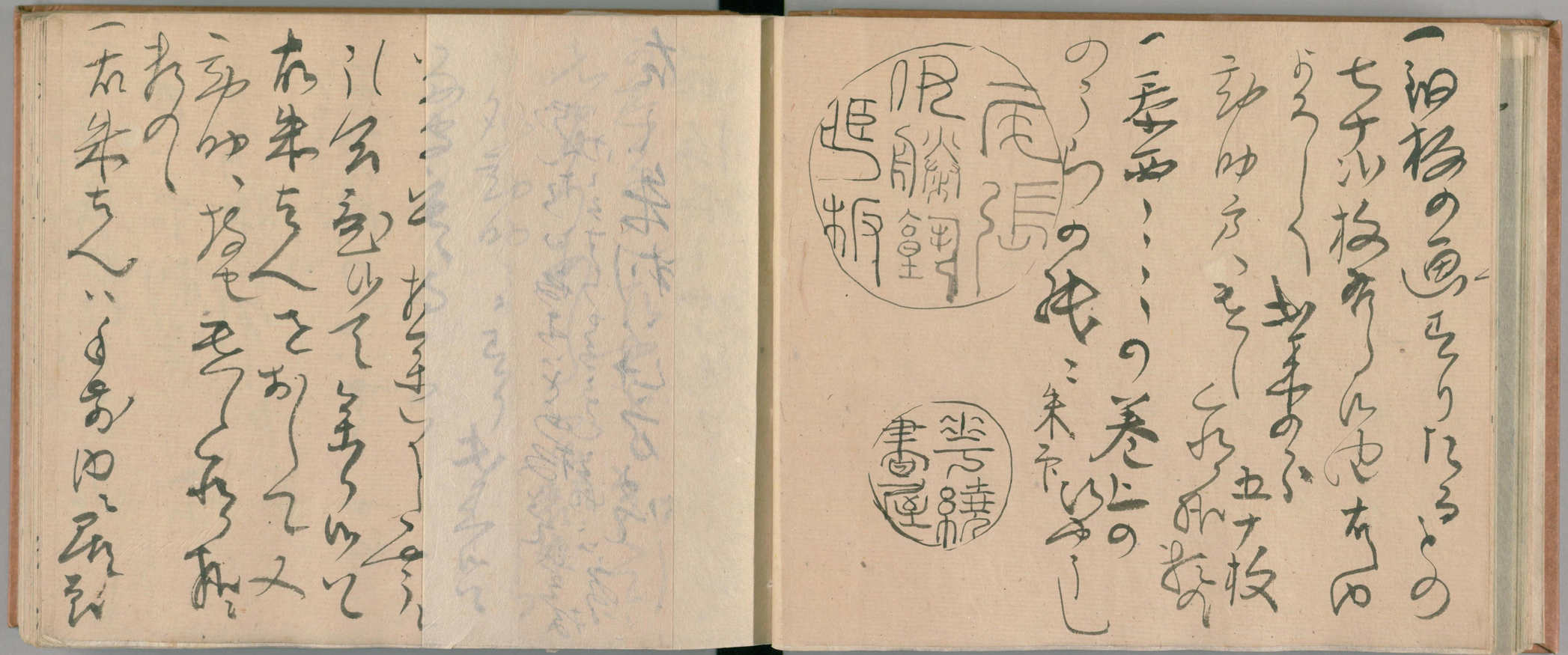
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用

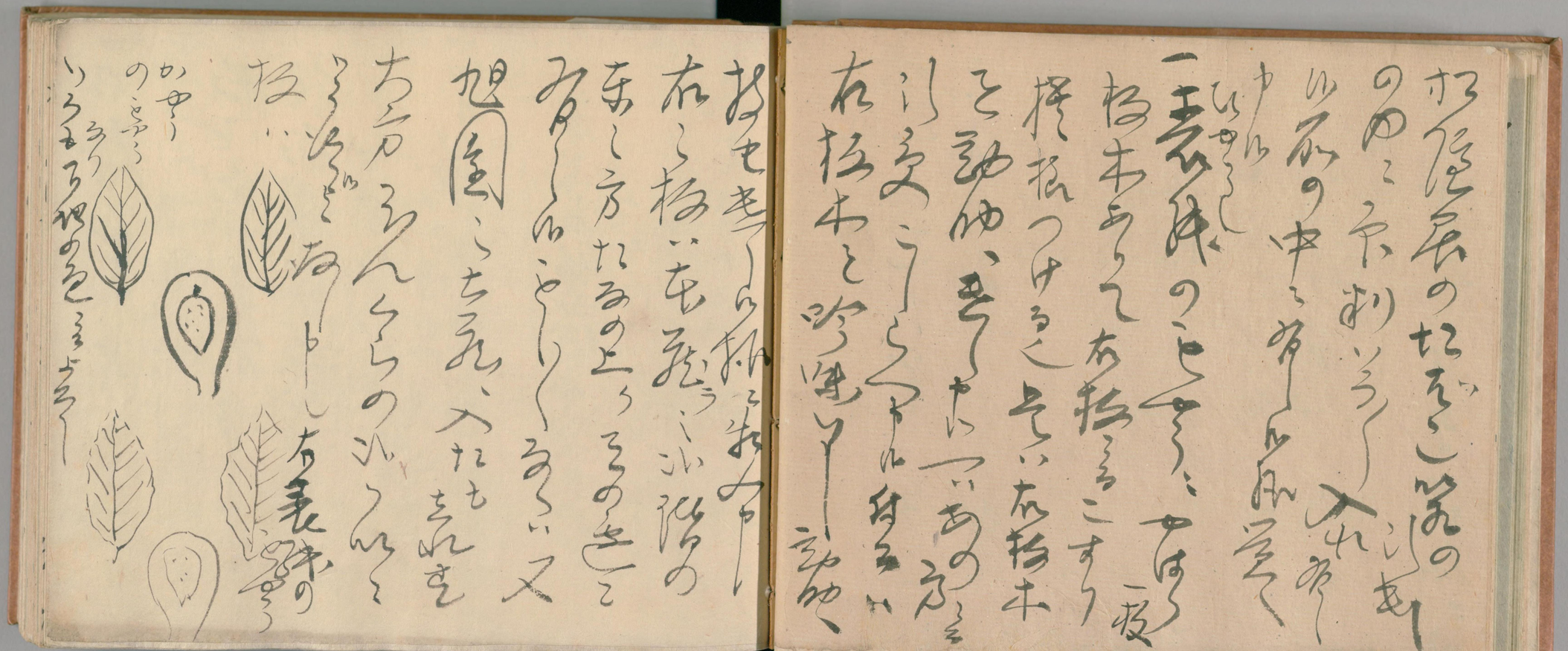
国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用

一右春勘本草ノ一ヲ此度
すりて三製本ニ結ハ一ヶ前
板を起し度所有ニ右ニ
協所ヲ申ハ巻上ノ凡例
ニ一丁めこら右ハ三行ヲ多ク
一和名ノ下〇ノ符ヲ載スルモノ多シ是本来舶西醫ノ

ハ之さまりかへハ右ニ協ニ
いしまりかへるなり　むめ木
ハ様ニ改し度　右ヲ付
板本やハ本町一町め　家所ハ
かし南の東ハ
之本やのむらく中村のう　大助
ニうらうしくハ
右西醫椎氏の中字ニ板下
起しヲハ
且又右凡例の中ニ稚氏ヲ申
六ヶ七ツ有ニハ右を椎氏ニ起ヲ申
是ハ右板を書し　右稚氏のへんニ

一右春和草〻を生ぜんとする製茶に付一ヶ条
相を述ること左の如し
一和名ノ下〇ノ符ヲ載スルモノ多シ是本草舶来舶西醫ノ
説ナリ〻〻〻
右し来舶西醫の口字を西醫稚氏
と云ふ稚春、注文
〻〻〻も未だ其の名のある
ことを聞かず右の名一冊も
相求もるの和の相をきゝ
〻〻〻

禾の一をけづるとこオ入ん
致しかねるもぞきうも蝶
ゆへ是も右ゝ絶り出し申候
右おしらの九着ゝ不おもはは
此手紙と小兵衛さるとも
申はれ人もて取候ゆへ
右ゝ取りこの申し面白ゝ

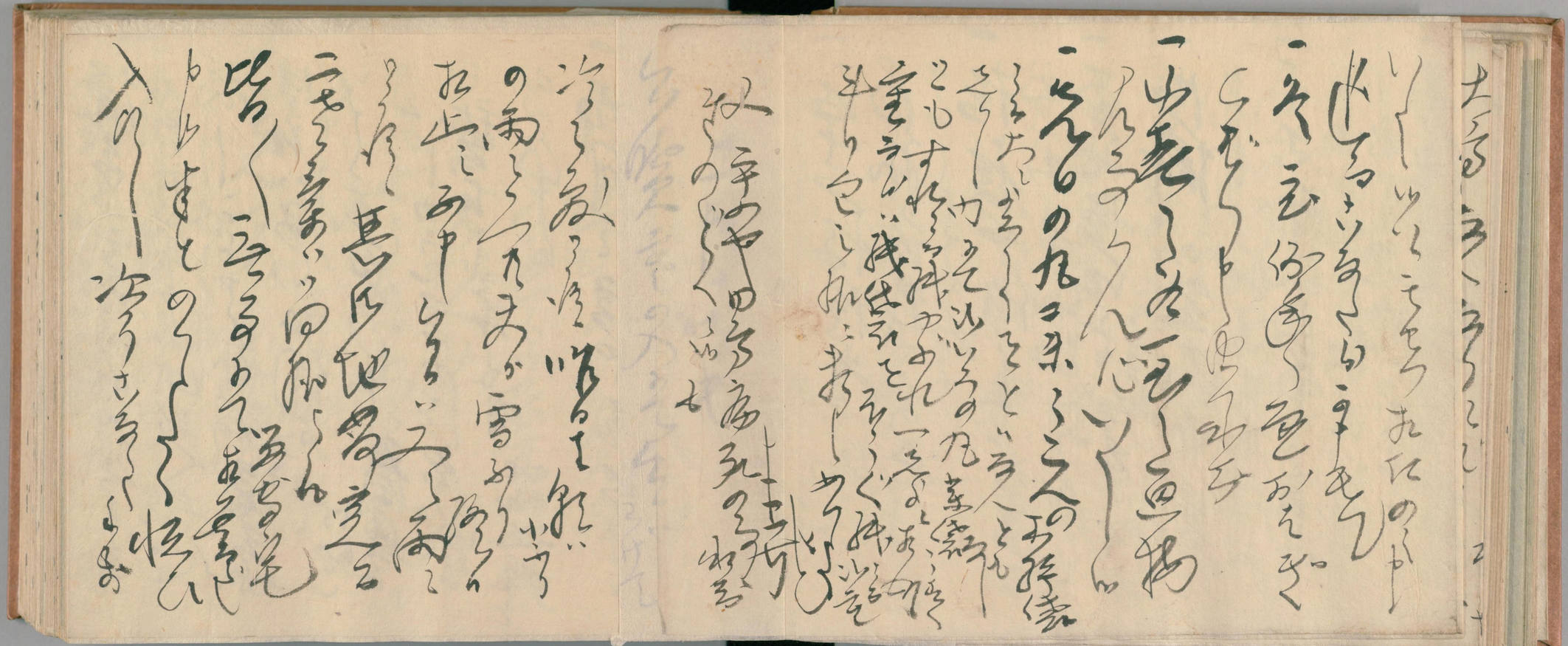
泰西本草名疏代稽
百部ゝ剣ゝ
五ナ部も来いくさも
ゝ候て干つゝとらゝ来も
ゝナ部も来て此ゝ
ゝナアゝ三ナア此方ゝ
申候 御物ゝ寫ゝ
ゝ候ゝ御ゝ
ゝ候ゝ
沙学小来ゝ
右ハ御ゝ
ゝ候ゝ右ゝ

国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『書簡集』 請求記号 特7-646
ガラス使用

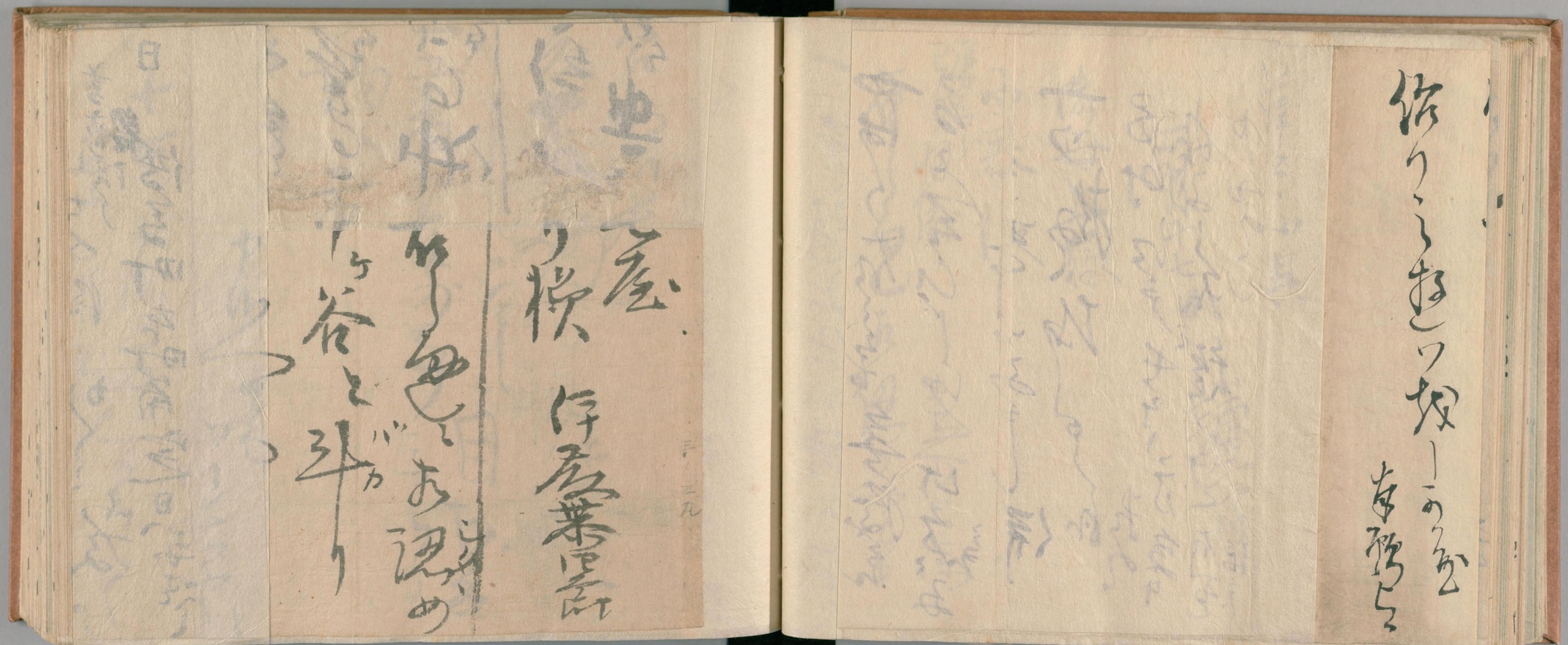
国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用

一年誠上仕は時分柄を
春和之節に成は処
益深機嫌能と為入目出
度存候は然夫戊割羽織
（道中あつ系）
道中にて是は雪当時にて
小く和歩は習所返しかは
御更取あと下は付るを有之
代り私之カツカウ仕は不り

国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646
ガラス使用



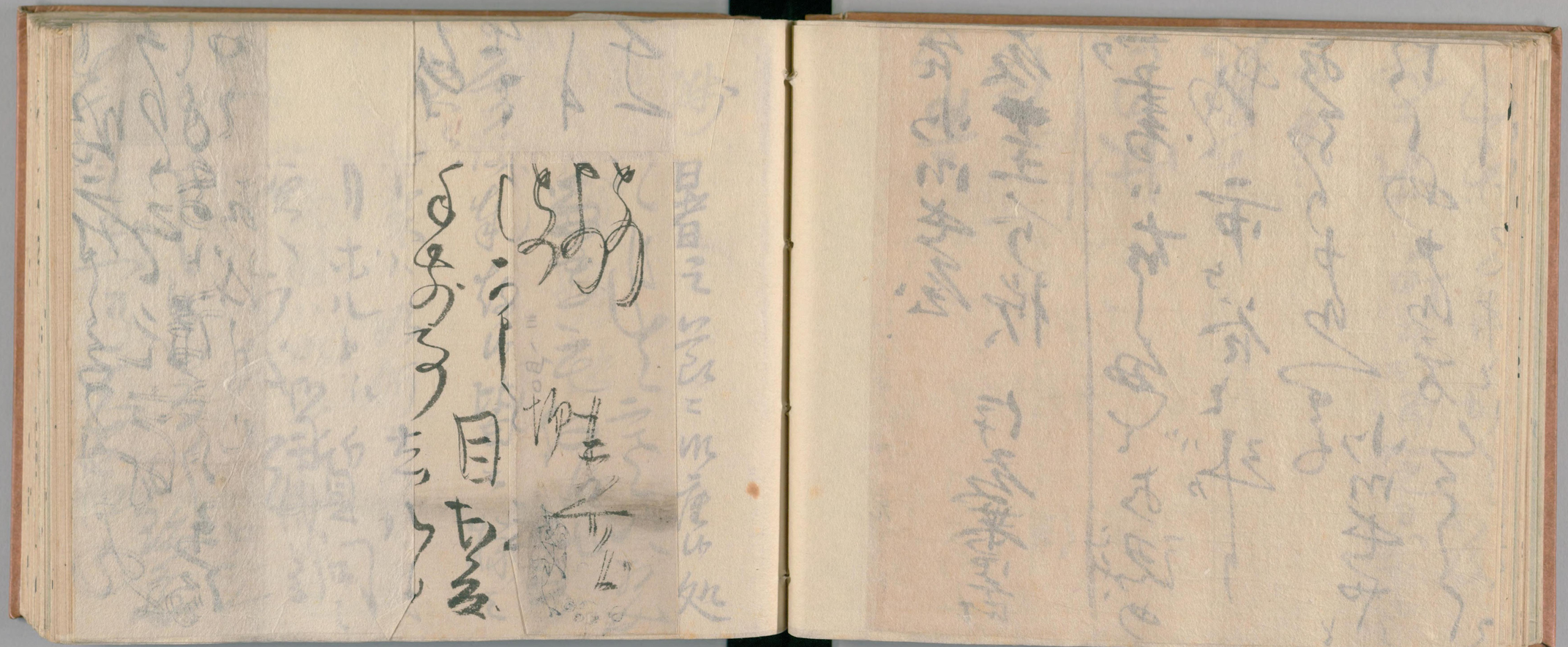
国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用

市ヶ谷小川屯屋
伊藤圭介様　伊藤葉[illegible]

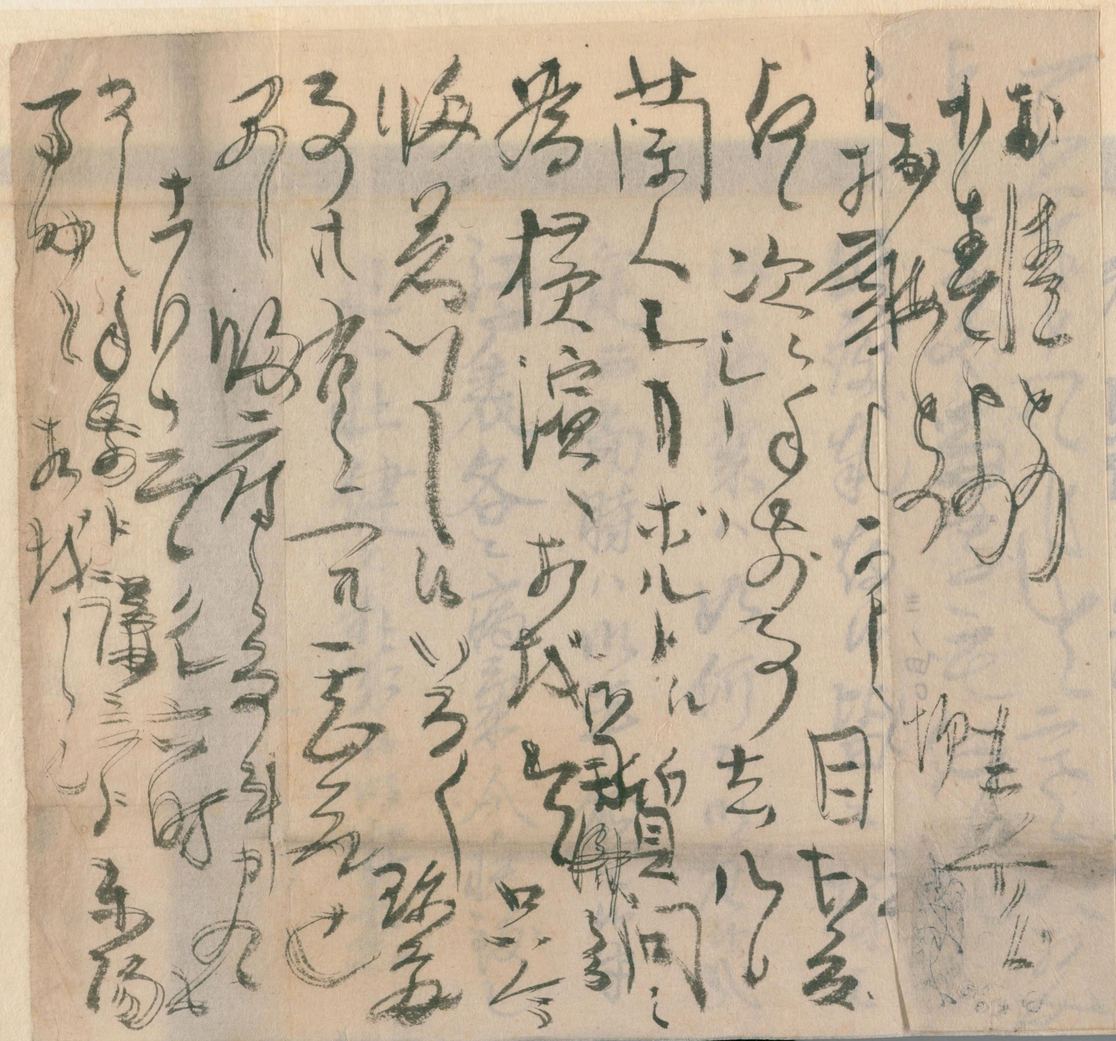
状の上書ハ右之通とお認め
この方ハ市ヶ谷と斗り
ゑるもおなりかゝるも
おもひしめかゝる方ハ小川屯やと
おろし
しちん陣と
かくこゝ
ナゴヤ分
五十ノ日
菩六ツ限り
名陣
伊藤町本町角定日ハ
お嘆へし

国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646
ガラス使用



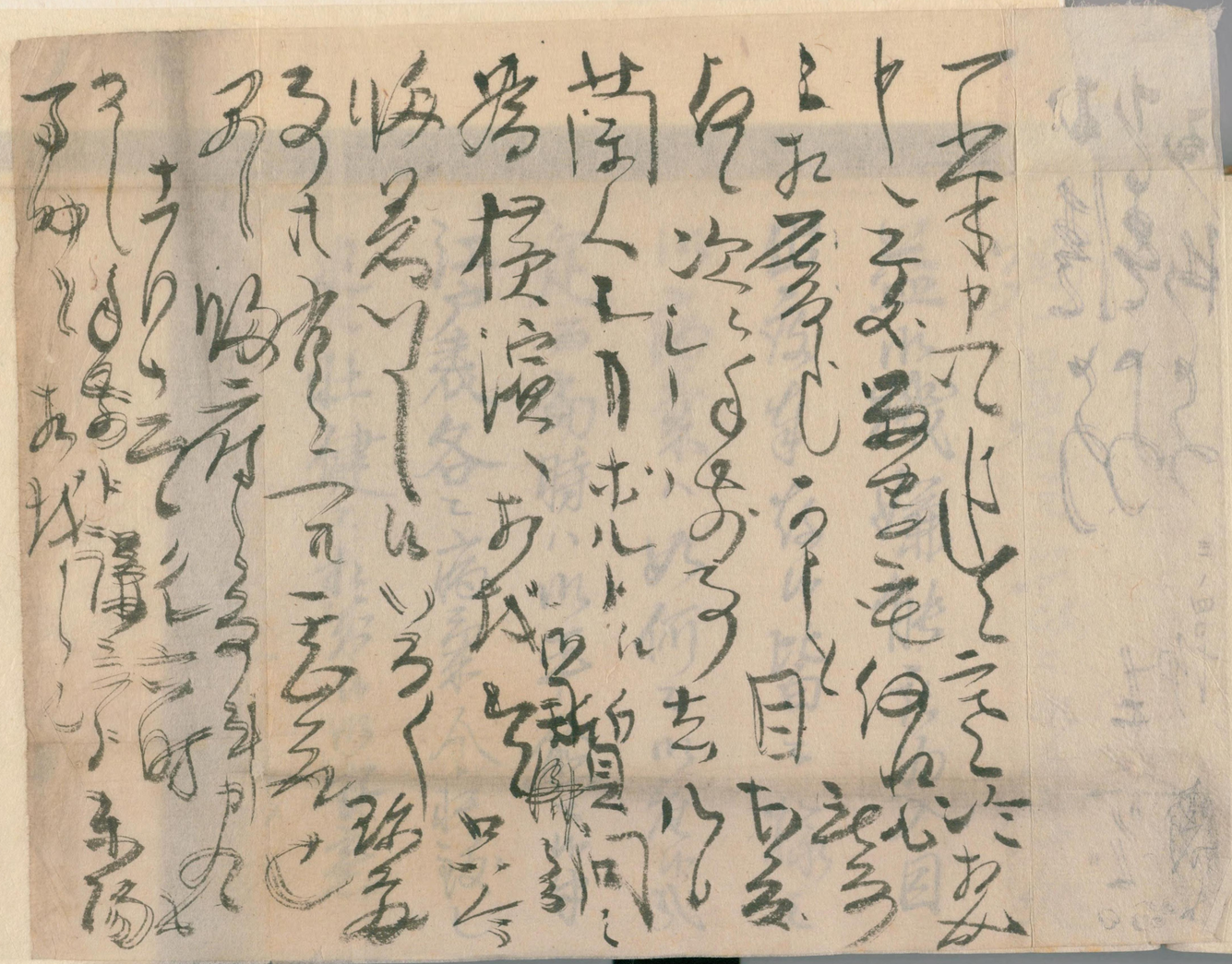
国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『書簡集』 請求記号 特7-646

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『書簡集』 請求記号 特7-646

ガラス使用

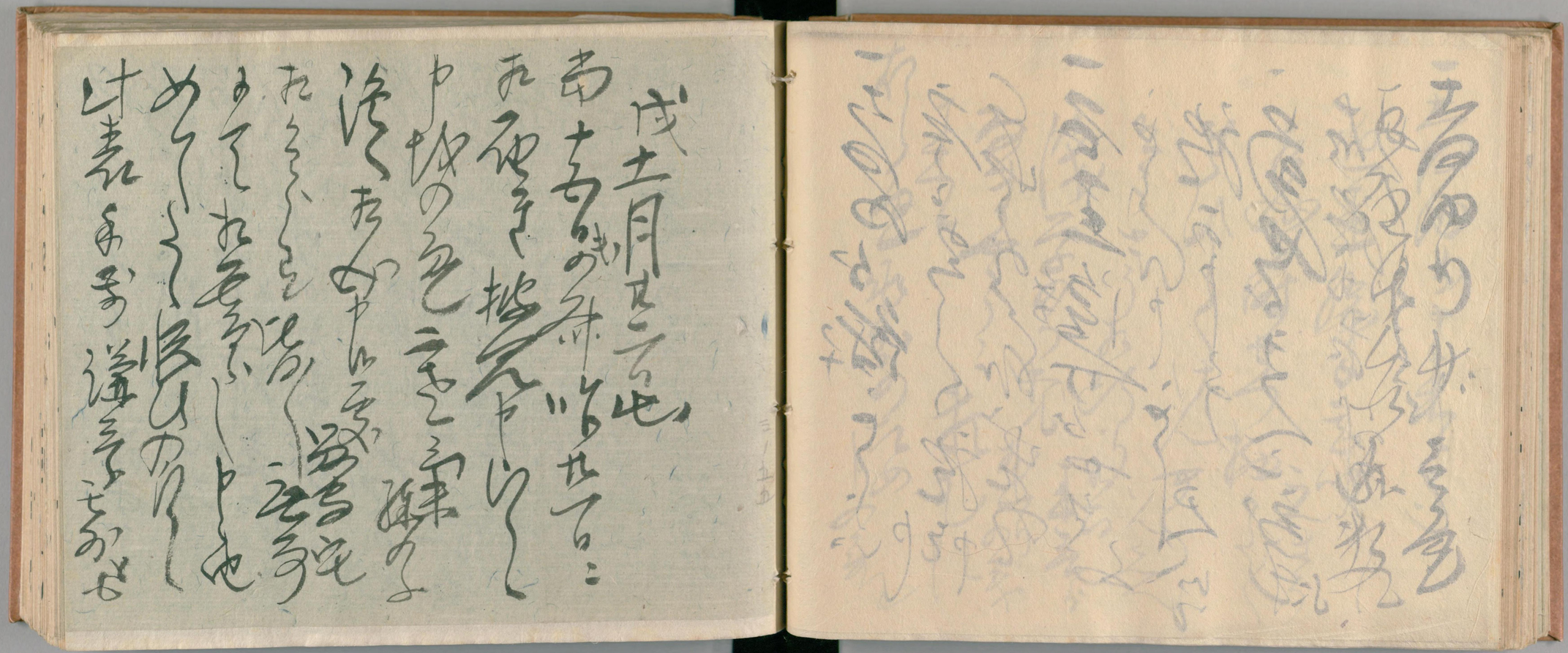
殊暑之節に以座に処
益以機嫌能許為入因
出度事故に皆に様に
以病業ハ如何に以座に成
定為尚時ハ以平愈に中
江戸表各に病業全快致し
迅に壮健に相来に以安意

国立国会図書館　タイトル『書簡集』　請求記号 特7-646
ガラス使用

可ヒ来下ハ　父上様事
此節　病家　海山ヨテ実ヨ
ハ忙敷候　ヱ日ニ定日不ル
畏候　此度ハ先ハ
右申上度如此ハ候ハ
筆ニ不宣
八月二日　謙三郎
母　尚

[illegible]
[illegible]
中ハ　中橋の邊
[illegible]
中ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

この末下山　父上様
時節　病家　海山まて実ニ
以北堂様　九日ニ定日ニ
取状等以前ニ参ニ先ハ
右申上度如此ニ候
　　　



国立国会図書館　タイトル『書簡集』 請求記号 特7-646

ガラス使用

の為×ことあるくる
正きゝ為ことも
人間ハ活物(イキモノ)のくと(ニンゲン)
おもふ事多きゝ又
お法とともいつ(ソノトキ)
るべしの為に(ニ)辛中
おるべきや(ニ)死ハ
ことの土(ニ)ゝ多(ノ)
ばといふ(ニ)ゝ
ゝ
ゝ